

P1-026

特別支援を必要とする児童の育ちに対する保護者の不安

瀬戸 淳子¹、秦野 悦子²

¹帝京平成大学、

²白百合女子大学

【目的】

筆者らはA自治体における保育巡回相談事業の中で、発達相談員として保育者支援に関わってきたが、保護者の視点から捉えた支援ニーズの研究は十分ではない。そこで筆者らは、特別支援を必要とする児童の保護者に対して、これまでの支援をどのように捉えているかについてアンケート調査を実施し、幼児期・児童期の支援ニーズについて検討した(秦野・瀬戸2021他)。本報告では、保護者が抱えている不安を、自由記述より検討する。

【方法】

調査協力者：小学校1～3年生で、通常級に在籍し放課後等デイサービスや通級指導教室を利用している児童301名、特別支援学級在籍の児童87名、特別支援学校在籍の児童24名、の母親412名である。調査期間：2020年12月。調査内容と手続き：19の質問項目からなる「保護者がとらえた園生活および学校生活」調査を作成し、Web調査(調査委託先：(株)マクロミル)に委託してデータを収集した(JSPS 科研費18K03046の助成を受けた)。なお、調査の参加については調査協力者の自由意思に基づいたものである。分析対象：本報告では質問項目のうち、Q19：「子ども、子育て、教育に関して考えていること、感じていること」についての自由記述を分析の対象とした。分析にはテキストマイニングのためのフリーソフトウェアKH Coder3を使用した。

【結果と考察】

テキストデータ内において出現出現パターンの類似した語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだ共起ネットワーク図から、出現頻度が高く共起程度の高い語を抽出し、その語が用いられている文脈を検討した。その結果、「不安・心配・将来」からは、現在の状況についての「不安」とともに、進学、就職、生活という将来についての漠然とした「不安」があることが示され、その背景には、具体的な将来像、見通しが持てないことが窺われた。「感じる・親・障害・発達」からは、子どもの障害特性の理解や対応の難しさなどとともに、孤独や疎外感を「感じ」ており、親への支援を必要としていることが窺われた。「子育て・思う・難しい」では、子どもをへの成長の期待とともに、自信のなさ、迷い、子育ての難しさが示され、母親だけへの負担への不満、多様性を認める社会への期待も示されていた。他のデータも併せながら支援ニーズについてさらに検討したい。

P1-027

特別支援を必要とする児童の保護者がとらえた学校生活

秦野 悦子¹、瀬戸 淳子²

¹白百合女子大学、

²帝京平成大学

【目的】

保育における保護者支援の研究において、保育者と保護者との間で、子どもの発達や特性に関する認識のずれが指摘された(秦野・瀬戸2018, 瀬戸・秦野2018)。一方で、保護者の視点から捉えた支援ニーズの研究は十分ではない。そこで筆者らは、保育の中で支援が必要な園児の保護者が、園生活の中で、どのような支援ニーズがあったのかについて検討した(秦野・瀬戸2021, 瀬戸・秦野2021)。その発展として、本研究では、小学校において、特別支援を必要とする児童の保護者を対象に、その支援ニーズを明らかにするために、わが子の学校生活や日常をどのように捉えているかについてアンケート調査をした。本報告では、自由記述の中から、保護者がとらえた学校生活から、支援ニーズを明らかにすることを目的とした。

【方法】

調査協力者：回答者の子どもが小学校1～3年生に該当し、通常級に在籍し通級指導教室や放課後等デイサービスを利用する児童の母親301名、特別支援学級に在籍する児童の母親87名、特別支援学校に在籍する児童の母親24名、計412名だった。調査期間：2020年12月。調査内容と手続き：「保護者がとらえた園生活および学校生活」調査19項目を作成し、Web調査を(株)マクロミルに委託し、調査協力者の自由意思に基づきデータ収集した(JSPS 科研費18K03046助成を受けた)。

分析：質問項目Q19：「子ども、子育て、教育に関して考えていること、感じていること(自由記述)」を分析対象とした。分析にあたり、テキストマイニングのためのフリーソフトウェアKH Coder3を使用した。

【結果と考察】

自由記述の解答を用いて、階層的クラスター分析を行った結果、保護者がとらえた学校生活について3つのクラスターが抽出された。またテキストデータ内での出現語彙の共起ネットワーク図から、出現頻度が高く共起程度の高い語を抽出し、その語が用いられた文脈を検討した。その結果、教育からは、インクルーシブの実現、特性や個性に応じた対応などの実現、また専門知識、教育の質、連携などの不十分さが示された。支援からは、通常級、支援級、支援学校、通級や放課後児童デイ利用の硬直性、居場所のなさ、転校・転学級、迅速さに欠ける対応などが示された。先生・指導からは、指導技術、一定水準の専門知識の確保と維持、支援のマンパワー不足、保護者の気持ちへの配慮などが示された。